

令和2年 飯田市教育委員会2月定例会会議録

令和2年 2月13日(木) 午後3時 開会

【出席委員】

教育長	代田 昭久
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	伊藤 昇
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子

【出席職員】

教育次長	今村 和男
地域人育成担当参事	青木 純
学校教育課長	桑原 隆
スポーツ振興係長	木村 喜宣
文化財担当課長	馬場 保之
市公民館副館長補佐	氏原 理恵子
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長	池戸 通徳
歴史研究所副所長	小椋 貴彦
学校教育課長補佐	滝沢 拓洋

日程第1 開 会

○教育長（代田昭久） 改めましてこんにちは。ただいまより令和2年飯田市教育委員会2月定例会を開会したいと思います。

日程第2 会期の決定

○教育長（代田昭久） 日程第2、会期の決定、会期は、本日1日のみとさせていただきます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（代田昭久） 日程第3、会議録署名委員の指名、今月の会議録署名委員は、上河内陽子教育委員にお願いしたいと思います。

よろしく願いいたします。

○教育委員（上河内陽子） お願いします。

日程第4 会議録の承認

○教育長（代田昭久） 日程第4、会議録の承認、1月定例会の会議録のほうお示しましたとおりでよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第5、教育長報告事項。

はい、私のほうで、紙を1枚用意させてもらいましたので、3点プラス1で話させていた
だきたいと思います。

まず、12月末からこの2月頭まで高校生の探求学習の様子を各学校に伺い発表を見てきま
した。12月24日には飯田OIDE長姫高校の地域人教育成果発表会、1月31日には飯田風
越高校の国際教養科の課題研究発表会、2月4日は飯田高校の理数科の課題研究発表会、そ
して、同じ同日、飯田女子高校の進学Eクラス中間発表会のほうに出向きました。

今、教育界の大きな流れの中で来年度から小学校の新しい学習指導要領が実施になり、来
年度が中学、そして再来年度の2022年度から高校の新しい学習指導要領が実施されていく

わけですが、そのテーマというのが、主体的・対話的・深い学びで、思考力・判断力・表現力を磨いていきたいと思いますというのが大きな方針です。

その中で高校では探求学習というものを大きなテーマに進めているわけですが、少なくとも先生方すごく一生懸命になって、また、子供たちもそれに応え、探求学習の成果が上がるというふうなことを率直に感じました。

特に教科学習だけでは変わらない。まさに自分が不思議に思った、疑問に思った、課題に思ったことを深く探求していく教科では、学ぶことができない充実した内容、興味深い内容になっている発表が多いなあということも率直に感じました。

その一方で、ここで下伊那農業高校に行けなかったのも、全体を俯瞰することはまだまだですが、各学校様々なスタイルがあって、これもまた興味深いなあというふうに思いました。

OIDE長姫高校だと飯田高校は、いわゆるグループで6人くらいのチームになって課題研究をするということです。ですので、グループのメリットとしては、やっぱりお互いに力を合わせて、まさに共同的な学習ができていだろうなあというふうに、力を合わせた感があります。

その一方で風越高校と女子高校は、基本的には個人の発表ということで、これはこれで本当に一人で全体の中で発表する勇気や、そして個人の表現力の磨かれる、それは素晴らしい機会だなというふうに思いました。

特に女子高に至っては、後発ということもあるんですが、個人とこのグループ学習の良さも取り入れてるなあ。要は個人で発表しながら他の子供たち生徒の発表で気になったり、また、テーマを変えて近づいてしても良いというような形でやってるので、そういった意味でも、それぞれの特徴を生かした探求学習が行われているなあというふうに思っています。

またさらに、飯田高校と飯田女子高校は、特に地域のつながりというのを限定せずに問題意識から入っています。例えば、温暖化がホッキョクグマに及ぼす影響というようなテーマで研究をしている生徒がいるんですが、だんだんやっていくと身近にテーマにつなげると、やっぱり地域や自分たちの生活といったところになると地域学習をせざるを得ないというような状況がやはりあって、その自分の広いテーマから入っていても、身近なところへも教育課題になるということも、これもご指導のたまものだと思いますが、良い研究レポートが多いなあというふうに思いました。

大変うれしかったのは、高校の先生と「ああ、素晴らしい発表ですよ」というような会話をする中で、「これ高校だけではできません。小学校から中学校までの学習の積み重ねを

感じます。最近の子供は特に地域に関心を持っている生徒が多いですよ。」というような事を言っていて、飯田市の小中連携・一貫教育が始まってちょうど10年、充実期を迎える中で、そういった教育成果の1つなんじゃないかなというふうに思っています。

ここであえて課題を言うと、高校の学問的な専門性を探求学習にどう結び付けていくのか。中学校の探求とは違うので、そこら辺がうまく行ったら普通科での地域人教育や地域学習にも結んでいくのではないかなと、そんなことも感じました。

それに引き続いてですが、昨日、長野県市町村教育委員会連絡協議会の代議員会のほうに、長野市のほうに出張してまいりました。いくつか県教委からの報告がありましたけれども、皆さんにも報告しておく1つ問題、課題、テーマとして新たな入学者選抜制度、高校入試が2022年度改定予定が2年間延期して2024年度からということのご報告がなされました。

1月6日に多分発表されているので初出しではないですが、その中でも経緯等説明がされました。

その中でも要は新しい学習指導要領で学んできた子供たちの成果を十分に考慮していきたいということもありましたけれども、まさに、今の前段の高校の探求学習と連携できるように、子供たちの学んだ成果が高校のほうでも十分に評価し、それら連続性をもってできるように2年間の間でしっかりとその連携を中高で図って欲しいなという希望も伝えてきました。

3番目、「飯田下伊那の中学生期の部活動を考える会」という研修会が行われましたので報告をさせていただきます。

主催としては県教委南信教育事務所の主催で、飯田ではなく「飯田下伊那の中学生期の部活動を考える会」ということで県教委、さらには中体連の副理事長が出席して県の方針の確認、さらには今後、合同部活動、少子化に伴う大会のあり方についての考え方の説明、その後には飯田市教育委員会から「全市型競技別スポーツスクール」の実態を含めてどういう方向性で取り組んできたのか、今までの取り組みを発表しました。

スポーツ関係や学校関係者、飯伊教育委員会の教育委員の皆さん、または教育長の皆さんなど約60名が集まった会議になりました。

概ねというか、前向きに進めていこうという、受け取っていただいた方が多かったかなあというふうに話し合いが進んでいく中で、やはり子供たちの声にもありましたように、やはり飯田下伊那での大会がある以上、そこでのやっぱり条件を統一していくこと、さらには1町村では難しいので、こういったのを広域で取り組んでいく動きを加速、広がりを期待するっていう声がありました。

その中では良い会議だったかなというふうに思っています。また、県関係者、中体連の副理事長も来ていたので、改めて大会のあり方に対する疑問提示もありました。トーナメント方式でやり続けることが本当にいいのか。さらには、今、下伊那大会を広域にして南信大会ということを検討しているわけですけれども、そういったあり方についても、いろんな活発な議論が出されて、良い機会だったかなというふうに思いました。

また、文化部への対応に対する質問もスポーツだけではなくて、そんなところも意識する参加者もいらっしゃいました。

こういった飯田下伊那での議論を含めながら今、ちょうどアンケートを生徒のほうに集計をしてますので、そんなことをまた校長会でも話し合いをし、学校現場、また、委員の皆さんからありました保護者の意見等、吸い上げながら今年度中には方向性を出していきたいなというふうに思っていますのでよろしく願いをします。

あと1点、補足でここに書いてないんですが、2月5日に聖火リレー、オリンピック・パラリンピックの聖火リレーの実行委員会というのが行われました。

各学校の小学校の代表、中学校の代表等、地区の代表、またスポーツ関連の方々が集まっていたので、4月3日に飯田市がスタートとして、これ補足ですが長野県でスタートができるのが軽井沢と飯田市なので、その出発のできるメリットを活かして、その出発する前にウェルカムプログラムということで、飯田市が比較的拘束なく出来るイベントをやろうと、そこに小学校・中学校・高校生を集いながら、子供たちの記憶に残るような1日にしていこうという、まず第1回目の話し合いが行われました。

それぞれの分科会を2月の下旬、そして第2回を3月の中旬というふうに予定してはいますが、そんな形で4月3日に向けて学校や関係者たち、力を合わせて良い聖火リレーの実施ができるように進めておりますので、こちらのほうもご報告させていただきます。

私のほうからは以上です。

何かご質問あればお願いします。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） はい、それではまたよろしく願いいたします。

日程第6 議案審議（4件）

○教育長（代田昭久） それでは引き続き行います。日程6番、議案審議。本日の議案審議は4件であります。

議案第4号 飯田市社会教育委員の委嘱について

○教育長（代田昭久） まず、議案第4号「飯田市社会教育委員の委嘱について」をお願いします。

北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） それでは、ページをお開きいただきます。

「飯田市社会教育委員の委嘱について」です。

社会教育委員の委員の職務としましては、社会教育に関する諸計画を立案、定時または臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ意見を述べる。職務を行うために意見を述べる等、その他職務を行うために必要な調査・研究を行うということになっています。

今回につきましては、任期中の委員の交代があり、その後任の方を委嘱するものであります。

提案理由については、記載のとおりです。

後任の鈴木雅子さんについては、家庭教育関係者の方であります。

任期については、前任者の在任期間である令和3年3月31日までとなります。

以上、審議のほうよろしくをお願いします。

○教育長（代田昭久） ただいま議案第4号に関する説明がありました。

何かご質問ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、ご意見ありませんので、議案第4号、承認ということでよろしくをお願いいたします。

議案第5号 飯田市キャリア教育推進協議会委員の委嘱について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第5号「飯田市キャリア教育推進協議会の委嘱について」をお願いいたします。

北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いいたします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） 引き続きまして、議案第5号をお願いいたします。

「飯田市キャリア教育推進協議会委員の委嘱について」です。

こちらのほう、キャリア教育推進協議会の役割につきましては、キャリア教育の推進に関する基本的な方針を定める。推進に関する評価及び検証を行うということであります。

任期中の役員の交代があり、後任の方を任命する者であります。

提案理由については、記載のとおりでございます。

任期につきましては、前任さんの在任期間である令和2年3月31日までとなります。

以上、ご審議のほうよろしくお願ひいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ただいまの説明に関してご質問ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、議案第5号、承認ということでよろしくお願ひいたします。

議案第6号 令和元年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第6号「令和元年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」お願ひします。

桑原学校教育課長、お願ひします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、議案第6号、「令和元年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」でございます。

認定対象者につきましては、別冊でご用意をさせていただいたとおりでございます。それぞれ記載をいたしました認定要件にてご認定をくださいますようご提案申し上げます。

よろしくお願ひいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ただいま、議案第6号の説明がありましたけれども、ご質問ご意見等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、それでは議案第6号、承認ということで、よろしくお願ひいたします。

議案第7号 飯田市小中学校いじめ対策指針の一部改訂について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第7号「飯田市小中学校いじめ対策指針の一部改訂について」お願ひします。

桑原学校教育課長、お願ひします。

◎学校教育課長（桑原 隆） はい、それでは、議案第7号、「飯田市小中学校いじめ対策指針の一部改訂について」お願ひいたします。

飯田市小中学校のいじめ対策指針の一部を改正し、別紙のとおり定めたいものでございま

す。

別紙をご覧いただきたいと思います。改正案でございます。

新たな改正か所の提案は1か所でございます、名称の改正をしていきたいというものでございます。

以前のいじめ対策という言葉の中にも当然防止も含め、いじめの防止、それから事後の対応含まれていただけでございますけれども、今回の改定にあたりまして、いじめの防止に向けての取り組みをさらに推進したいという狙いを含み、その名称も、また、国とか県の当該文章に合わせて「飯田市小中学校いじめ防止等のための基本方針」というふうに名称を今回改定したいということでございます。

その他は誤字脱字等のなんからの修正はございますが、内容については前回ご確認をいただいたものと同様でございます。

よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ただいまの説明に何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

はい、伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） ちょっと聞き損なった。タイトルだけですか。今おっしゃってたのは、前のタイトルが。

○教育長（代田昭久） 桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） 前のタイトルは、議案第7号のところに書いてあります「飯田市小中学校いじめ対策指針」というものでございました。このいじめ対策っていうのも、もちろん予防も含まれておりましたが、今回、防止、いじめの防止ということに重きをさらにおきたいということを、それから国・県の方針の名前に合わせて「いじめ防止等のための基本方針」というふうに修正をしていきたいということでございます。

◇教育委員（伊藤 昇） はい、それなら承知しました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

他に。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは議案第7号、承認ということで、よろしくお願ひいたします。

日程第8 陳情審議

○教育長（代田昭久） 日程第7、日程第8、協議事項、陳情審議、本日はございません。

日程第9 その他

○教育長（代田昭久） 日程第9、その他。

（1）教育委員報告事項

○教育長（代田昭久） 教育委員報告事項。

よろしく申し上げます。

北澤教育長職務代理者申し上げます。

◇教育職務代理者（北澤正光） 少し長くなりますが大きくは2つです。1つは授業づくりとか、子供たちの学力・体力を伸ばすというような観点のことで、1月後半にある中学校の公開授業を4教科見させていただきました。その中に非常に先見性があるというか、これからは活かされていくと思う授業を見させてもらったので、それをご紹介します。

1つは体育の授業で、飯田市の場合もそうですけど、体力テストの結果が中学校では二極化しているということがありました。そこで、運動が苦手な子でも参加できるタイプの授業を工夫していました。普通にある種目の運動ではなくて、テニスとバドミントンとそれからドッジボールの3つを融合させたような、要は、まったく独自につくりだした、そのクラス独自のゲーム。ボールをつかっただけのゲームですけど、そのボールは保育園の子供が使うような柔らかい手のひらに入るくらいの大きさのボールを使う。5人グループで構成しながら、2人ずつがペアになってダブルスで戦う。低いネットを隔てて、コートもバドミントンのコートよりもちょっと狭いくらいのところ、手を使ってキャッチをして自分のコートにワンバウンドさせてから相手のコートにボールが入るようにする。ボールゲームの恐怖心につながる要素をいっぱい取り除いているのです。作戦を立てて、相手にボールが受け取られなければ得点が入る、相手にボールをキャッチされると得点にならず、今度は相手が攻め返せるってというような、要は自分たちでルールも考え出してそれでやってく。

こんなに易くして、運動になるのかなと思って見せてもらっていたら、何のことはない、苦手な子も参加できるのですごく激しい攻防が繰り広げられて、中には発達特性があって運動が苦手な子も、体育の授業は今まではクラスでは受けずに別のところで少人数でやっていたというお子さんもそのグループの中に入ってやっていました。

授業記録を取らせてもらいながら参加していたのですが、瞬く間に50分が過ぎて子供

たちも授業の後で聞いたら「楽しかった」と言っているような場面に出くわしました。学校や体育の先生の工夫次第で、ルールとか用具とか場所を子供たちに合わせながら組んでいくことで、体を激しく動かし、友達同士の協力と競い合いの場面がつくられていました。既にあるスポーツを体験させていくことがすべてではない。その先生に聞くと、いずれはそれをテニスや、バドミントン、バレーボールにつなげていくという見通しの中で進めているということでした。自分たちで作り出したスポーツを、子供たちが楽しみながら考えながら取り組んでいるという授業を見させてもらって、こういう実践を他の学校にも広げて欲しいと申し上げてきました。

同じ授業づくりにかかわってもう1つは、中学校でも飯田市で進めていただいて、タブレットを一クラス分ずつは各学校に配置してもらったようですが、中学校三年生の技術科の時間、ちょうどタブレットを使い始めて4時間目だという授業を見せてもらいました。

そこでは「世界一わかりやすい取扱説明書をつくろう」というテーマで、自分がつくったテーブルタップの取扱説明書を4人グループで分担して作る。4人全員がタブレットを持っているわけですね。そのタブレットを駆使してわかりやすい取扱説明書をつくろうというので、説明書の項目を分担して、自分で写真をとって、その写真を取り込んだり、ネットから情報を取り、必要な部分だけ切り取って貼り付たりということをしなが、グループで工夫して説明書をつくっていく場面でした。それも男女共同でグループで協力して教え合いながらタブレットがフル活用されていました。情報教育を学び続けてきた中学三年なので、タブレット使い始めて4時間目だっというんですが、かなりの使いこなしを子供たちがしていて、これも今までなかった授業、随分授業の形が変わって来たなあということ、来年度以降も各学校でかなり利用が進んでいくんだろうと思うんですけど、市教委のほうでも、教育指導主事もいることなので、さらに深まるように進めていただければありがたいと思います。

ここまでは授業づくりのことにしてお話しました。

もう1つはとっても嬉しい話で、発達特性があったり、不登校等が長く続いてきたりしたお子さんたちの話です。

例えば、小学校四年からずっと不登校だったある生徒さんが今年中三になります。小四の時からほとんど学校へ登校できずにいた子で、学校側から支援指導主事や担任が週に1回ほど定期的に訪ねていくとかってというようなことをずっと繰り返してきたお子さんです。中三のこの時期まで継続してきて、ついこの間はクラスの百人一首大会へ家から歩いてきて、クラスの大会に参加し、また歩いて家へ帰ることができた。ある高校の通信制のコースを受験し、この間合格の内定をいただいた。ちょうどその日にさっき言った授業を見にうかがって

いましたので、本人や保護者の方の喜びはもちろんですけども、学校の先生方が合格通知を皆さんが喜んでいて、これだけ学校でこの子をずっと大事に見守ってこられたのだなあと思いました。

それから別の女の子は、小学校からずっと目をかけて丁寧に支援してきたんですけど、中学へ行ってから二年生と三年生の前半あたりまでが不登校になってしまった子です。保護者も一時期は悩まれて、何度もご相談しました。その子のところへも毎週手紙を届け、かわりを持ち続けてきました。その子も今は受験に向けて何事もなかったかのように登校してこれからの受験に向けて頑張っている。その子には先ほどの授業を見せてもらいにいった日に廊下で偶然会って挨拶をしてくれました。一皮むけて前に向かってがんばってるんだなあっていう姿を見せてもらいました。

また別の生徒は、中学の時ずっと不登校だったのですが、通信制の高校に進み、今、高校二年生になっている。対人関係が苦手とっていた女の子ですが、今は市内の量販店で接客のアルバイトをしながら高校で目的をもって学んでいる。

それからこれは別の中学の卒業生ですが、市内の高校に進んで今は二年生になっている。自閉症があるっていうふうに診断されているお子さんです。それは高校の先生が素晴らしいなあと思っているのですが、「この子は学力的には問題はない。むしろこれから先のことを考えると対人関係の力を付けてくことが必要だから、ぜひアルバイトをさせましょう」といって、高校の先生からのアドバイスを受けて、親御さんもその助言を受けて、その高校のすぐ近くにある量販店で接客のアルバイトをさせてもらいながら高校生活もがんばっているという話を聞いています。

最後にもう1つ、私もその子の小四から関わってきました。とっても発達特性のあるお子さんでした。植物図鑑などは全部暗記していて、機関車トーマスの絵なども、これはいつ出たトーマスでどんな特徴があるというのを全部書いて言えるといったお子さんでした。その子が今年、高校三年生を終わるんですけど、ある大学の望んでいた学科に合格しました。キノコの研究を貫いてやりたいのでこの学科にしましたと、写真入りの嬉しそうな年賀状をいただきました。

今、紹介したようないくつかのエピソードを重ねていくと、それぞれ途中途中では苦しい場面もあって、これからも苦しい事もあるとは思んですけど、上手に周りの皆さんが関わったり支えたりして見守っていく中で、その子なりに次のステージへ足を踏み出している。踏み出そうとしているのを見る時、学校は、私たちはどういうふうにしてくのが、こういう子供たちを支え、背中を押していけるのかなあとということを改めて考えさせられる。答えは

ないのでしょうが、見守って、風を送り続けて、その本人の力で一步を踏み出すところまでは、上手にみんなが関わっていくってことしかないのかなあと改めて思いました。

そういうわけで、後段の話はどれもこれも、途中は悩みの中だったんですけど、今の姿を見聞きすると、どれもこれも嬉しい話だなと思って、みなさんと共有したいと思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

はい、伊藤教育委員お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 報告っていうよりも、意見っていうような話になっちゃうんです。

実は小中連携・一貫教育のことなんですけれども、探索期4年、深耕期4年、そして充実期では何年ですか、2年ですかね。今1年経ってもう1年ということで、今後の見通しについてっていうか、その後のことについて何かあればお聞きしたいと思ひまして。

と言いますのは、これだけ積み上げてきて10年の計画の9年まできているわけですね。で、今後のことを、あろう体制を推進会議というのをそのまま、こう、この次の展開っていうのが、今まではまだ先に探索期があるなあ、ああ、次には深耕期があるなあ、充実期があるってやってやったんですけども、今後これからどうしたらいいのかなっていうそういうことなんですけれども。

小中連携・一貫教育をこれから進めていくと、理想形ですけれどもあくまでも、まあモデルとしては同一施設を小中一貫校というのがこう、あの一応やれるかどうかはともかくしても目標としてあるわけですね。

そういったところと、先ほどの言った教育環境充実に向けた指針の話とどういうふうに小中連携・一貫教育とこう結び付けてくるのかっていう。その辺のことも当然考えていかなければならないのかなあというそんな思いがあるわけです。

またその小中連携・一貫教育の中では、目指す子供像なりそういうことを目標にやっていく、それはそれでいいと思うんですけども、教育長がおっしゃっていた全国学テの話がなされた時に、あくまでも数値、数字だけを追うわけではないけども、ゆゆしき問題だっていることをおっしゃってたんですけども、やはり小学校の高学年から教科担任制にするとか、そういった場合には、小中一貫校同一施設っていうことがやりやすい。あるいは2、3年前だったですね。丸山小学校でなんかそれを試みたことがあったっていうような話も聞いていますし、そういうことを考えますと、ソフトの面とハードの面と今後どういうふうに結び付けていくか。

ですから、この小中連携・一貫推進会議というのは、もちろんソフト的なことをやっているわけですが、それにその同一してその中の小中一貫校っていうことになると、ハード面からも整理、これをうまくこうマッチングして、うまくこう合わせていくんだと、ぼつぼつそういう時期にきてるのかなあとそんな思いもして、小中連携推進会議のまとめの最後に述べさせていただきます。

そういうことです。

○教育長（代田昭久） はい。

事務局のほうで、何かフォローを。

教育次長お願いします。

◎教育次長（今村和男） はい、ご意見ありがとうございます。

今、飯田市は小中連携・一貫ということで、急に1つの建物では、できないことで、進んできたわけですけど。今度あり方を検討する中では、いわゆる同じ建物の小中一貫ということも当然、発想に入ってくると思いますし、教育のあり方を考えていく時に、全国色々なやり方があると思いますけど、飯田には飯田のやり方があるのだと思います。

その時にやはり飯田市の特性とすると、学校の数が多いいって言われることを聞いております。もう1つ多いと言われているのは、公民館とか自治振興センターです。飯田市は何度も拠点支所をつくらうっていう議論が付いたり消えたり付いたり消えたりしてきました。各地区に、合併したところに支所、今、自治振興センターですね、あるのは数が多過ぎるという議論があった時期があります。

ただそうではなくて、そこに住民の自治が守れるというのが大事であるし、そういうふうな色々な議論を今まである中で、守るべきものは守り、攻めるべきところは攻めるという議論で今まで来ました。同じことが学校区に言えると思ってまして、だから全部の今の28校全部守るということではなくて、どういうことが良いのかということにはまさに、今、まさに伊藤教育委員が言われる様々な角度から研究がこれから始まっていくところだと思います。

その中では伊藤教育委員、言われるような形というのを、私は十分1つの有効な選択肢になり得るものだと思いますし、本当に子供たちのための教育、さらにそれはさっき出ました子供たちとか、さっき議論も出た若い世代のお母さんたちがこう思うとか、いろんな議論があると思います。

ただ、そのことだけじゃなくて、やっぱり飯田では、飯田の地域の特性を踏まえた時に未来にどういう子供を育てたいんだというこの哲学をしっかりといた上でいろんな意見を吸収していくということがすごく大事だと思って、そこはブレない精神を持ちながら教育委員

会として進めていくことが大事だと思っておすので、今、伊藤教育委員が言われた、いろいろ今、例えばコミュニティスクールもあります。いろんなことありますので、1回またしっかり議論いただくことかなと思っています。

◇教育委員（伊藤 昇） はい、済みません、ありがとうございました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。

上河内教育委員お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） はい、1月18日に飯田市キャリア教育推進フォーラムに出席させていただきました。とても素晴らしい会だったなあということで感動いたしました。結いジュニアリーダーの活動発表はもちろんのこと、その地域で小学生と天龍峡驚龍峡復活のプロジェクトに参加される地域の方の話も聞くことができましたし、高校生のボランティアの官民学と連携したボランティアの発表も聞くことができました。さらに、やっぱりもっとも驚いたのはフリートークというのの時間です。

フリートークでジュニアリーダーが自分の意見を真摯に、率直に発表し、そして司会進行してもう大人が介在することなくそのフリートーク等の時間をつくっていたと思うんですが、会場からもその中学生の意見も出るし、また、先生や大人たちの意見も同じように出てくるというような場でした。

で、それはあまり見たことがないような活発なことだったので、すごい子供たちは真剣にいろんなことを考える力もあるし、こうやってその場所を任せるとすごく自分たちで発言する力もあるし、何かをつくっていくという力もあるんだなということを体験させていただいてとても感動しました。

その中でいろんな夢を語るっていうこともあったと思うんですが、先生になりたいとか、教員になりたいというふうに言っている中学生が何人もいるのを見ました。で、この飯田の自然をもっと活かした教育をして都会から人を呼びたいとか、特産品をもっと活かして欲しいというような、大人への提案のようなものもありました。

そういった子供たちがみんなが夢を語ってくれた、そういう夢が実現できるように大人たちとして、自分も保護者としても見守っていきたいと思いますし、中学生にしかできないことがあるっていうふうに言っていたように、大人にしかできないことがあると思うので、自分たちもこう考えていこうというふうに改めて思わせてくれるようなとても素晴らしい意見交換だったかなと思います。

このようなフォーラムを主催してくださったスタッフの皆様に、いろいろな段取りとか皆

様の力に敬意を表したいと思います。

ありがとうございました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

キャリア教育推進フォーラムについていただきました。

はい。

◇教育委員（三浦弥生） はい、済みませんちょっと準備がなくて申し訳ありません。

思ったところを。

冒頭の教育長報告ところに探求学習というお話をいただきました。そういえば私が私学校の飯田女子高等学校の有馬校長と先だってお話をしておりまして、探求学習の話をちょっとしております。

その時の話では、「今はね」というところで、浄土真宗の関係の学校法人ですけれども、命をいただくというところで猪というそういった獲物の学びをする。

猟友会の方に頼んで猪というのを取ってくる。そうするとそれを解体するところで生物の教員も一緒にいて解体する。どういった筋肉臓器があるのか、骨があるのか、骨格があるのかというのを、もちろん教員がそこにいく。そして学生も一緒に解体する中でそれを見る。様々なそういった教員がその部分その部分で入って行って、最後にまた家庭科の教員がいて、その肉をいただくといったところで郷土の料理はどのようなものがあるかというところで、それを食すといったところまでの、猪といった身近にいるそういった山の生き物に対するところでいろいろな学問分野が入って行って、今、探求学習というところでの学びを行っているんだよという話を聞いて、ああそうなんだというところをすごく感じました。

教育長冒頭でおっしゃったように主体的、対話的、深い学びというところでの学び、そして思考力・判断力・表現力といったところの力を付けるといったところがすごく求められている。

言葉で言うのは簡単ですけれども、そういったような本当にいろいろな学問が生活の中で学びになってくる。こういうことも今は本当に求められているし、あれってすごいことだったんだなってところを本当に感じるなというところを本当に思いました。

それと合わせて、今、教員の働き方改革というところを言われています。それで部活動のあり方についても、そういった点も少し含まれているのかもしれませんが。そういった教員のあり方もそういった教育をするのはというので、これも有馬校長とのお話の中で、教員がさくその工夫授業を行う工夫をするその時間というものにかかるというのはすごく大きな時間であって、労力といいますか、すごく大変なこと、なので、働き方改革で得られたそうい

った時間を、子供たちが学ぶための準備として使っていくと、こういうふうには切り替えの時期なんだなというところを、そんなちょっと会話の中で感じました。

はい、以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（２）教育次長及び地域人育成担当参事報告事項

○教育長（代田昭久） それでは、教育次長及び地域人育成担当参事報告事項あれば、お願いします。

◎教育次長（今村和男） ありません。

◎地域人育成担当参事（青木 純） ありません。

（３）学校教育課報告事項

○教育長（代田昭久） それでは「学校教育課報告事項」お願いします。

高坂学校教育専門幹、お願いします。

◎学校教育専門幹（高坂 徹） はい、お願いします。

それでは資料のいじめ防止等のための指針の次のページをご覧ください。

令和元年度の小中学校の卒業式及び２年度の入学式の教育委員会あいさつの案をお示してございます。まず卒業式の案のほうをご覧ください。最初のところ時候のあいさつをしていただいた後、ラインボックスがございしますが、これは例年通り各学校に照会をしまして、卒業生の皆さんの特徴的な素晴らしい姿 100 字前後でいただくようになっています。

その後の段落になりますが、今年度の教育長のほうからアドバイスをいただきましてラグビーのワールドカップの話題を載せてございます。内容は、読んでいただきますとご承知のように人種も国籍も違う日本代表であります。一生懸命ワン・チームになって活躍した。それから、その姿を分け隔てなく私たち日本人が支援を送ったと。そういう姿、将来の姿を象徴しているようです。それぞれ進んだ学校あるいは社会の中でも多様性を尊重し合うそんなことを大切にしてくださいということを文に入れてございます。

小学校・中学校同じような内容になっております。若干、卒業後の進路が違いますので文面が違っておりますが。

続きまして入学式のほうをご覧ください。

小学校のほうであります。非常にちっちゃなお子さんですので、みんなあいさつをしましょうというところで簡単に短くしてございます。

中学校のほうにいつていただきまして、こちらも教育長のアドバイスで全市型スポーツの関係は入れたほうということでございます。そこで教育長が冊子の中で書かれていた言葉を引用させていただきました。ノーベル賞をいただいた吉野彰さんの話題に触れまして、学生時代に非常に興味を持ち、好奇心の対象を見つけていったと、その中で飯田市では部活動、時間を適切な時間に絞って、それ以外の時間は自分の好きな趣味、読書、勉強やあるいは手伝い、ボランティアあるいはスポーツ、などにチャレンジして欲しいと、そういう中で好奇心の対象を見つけて一生懸命取り組んでくださいという入学式のあいさつにいたしました。

以上でございます。よろしくお願ひいたします。

(4) 生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」お願ひします。

はい。

◎スポーツ振興係長（木村喜宣） 生涯学習・スポーツ課のスポーツ振興係長の木村でございます。課長にかわりまして説明させていただきます。

34 回目になりますやまびこマーチ、来年度ですが、本年は4月 25・26 日の2日間を予定しておりまして、よく月曜日に一日プラスですが開催日は4月 25・26 日ということでございます。

テーマにつきましては「花と緑と陽光の中を 『手作りのおむすびを持って家族と歩こう』」ということで毎年行っていますが、本年度もこのテーマで開催したいと思っております。

ゲストといたしましては、今年度と同じくニッチローさんをお呼びすることと決まっております。

コースといたしましては、人気のある大平コース、また、ここ2・3年新しくなりました竜東コースなんか人気でございます。また参加者の中では、飯田市独自でございますけれども、PTAの皆さんによるコースをつくってPTAの皆さんが運営して役員も務めていただくPTAコース中に大勢の小学生が主でございますが、中学生、小中学生の皆さん保護者のお父さんお母さん、中にはお祖父さんお祖母さんもいらっしゃるかと思っております、一緒に歩いていただいております。

せっかくウォーク 27 日月曜日のせっかくウォークですが、今年度は天龍峡大橋を通るコースとさせていただきます。もう歩いた方もいらっしゃるかと思っておりますけれども、大変眺めの良いコースで人気のあるコースになるんじゃないかなと思っております。今回はそこをせっかくウォークとして開催し、来年度、うまいことなんか通常のコースに組み入れられた

らなというふうに考えております。

飯田市のコースの特徴ですが、資料の2ページ3ページになりますけれども、コースの多さが飯田市の特徴となっております。25日の8コース、26日の7コースということで大変多くのコースで用意し全国の皆様のご来場をお待ちしておるところでございます。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

はい、馬場文化財担当課長、お願いします。

◎文化財担当課長（馬場保之） 別刷りに皆様のお手元に「伊那谷の自然と文化」学びあい講座第3回という内容をお配りしております。3月1日日曜日市役所本庁舎3階の会議室において歴史研究所の研究者とそれから天竜川上流河川事務所副所長さんに来ていただきます。

昨年の台風19号で千曲川において大洪水が発生したことは記憶に新しいかと思えますけれども、天竜川におきましての7年に1度の大洪水が有史以来おこっていると思えます。そういったところで新たに防災に対する気持ちを皆さんに持っていただくということで、考えていきたいというふうに思っております。

よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（5）公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「公民館関係報告事項」お願いします。

◎市公民館副館長補佐（氏原理恵子） ございません。

（6）文化会館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「文化会館関係報告事項」お願いします。

棚田文化会館館長、お願いします。

◎文化会館長（棚田昭彦） お配りの資料3をご覧いただきたいと思えます。

『人形劇のまちづくり』の推進に関する取り組みでございますが、実施済みの事業でございますけれども、人形劇公演事業としまして定期公演1月におきまして定期公演では西中学校の人形劇部 TheWorld が出演していただきました。

また2月2日の飯田人形劇まつり、これは飯田下伊那のアマチュアの人形劇を伝えている皆さんが集まったお祭りなんです、こちらのほうで竜東中学校の人形劇部きらら出演をされています。全員で230名の方の入場がありました。

今後の予定ですが2月の定期公演では上久堅小学校の10（テン）という、チャレンジという劇団が公演をいただけると思います。

次に2番の人形劇創造支援事業でございますが、伊那谷タイムトラベラーズってことで引き続き小学校と中学生の参加をいただく中で、人形劇の創作活動を続けていただく予定でございます。一応、3月で一区切りの予定になっております。

以上であります。

続きまして資料ナンバー4、一枚めくってもらいまして、資料ナンバー4をご覧くださいと思います。

オーケストラと友に音楽祭2020、第12回目の事業概要日程とチケット販売についてご案内を申し上げます。

第12回は5月2日土曜日から5月5日の日程で開催をさせていただく予定になっております。主なプログラムの内容につきましては、例年と同じように名曲コンサート、あと小学生のための音楽ひろば、あと音楽クリニック、クリニックコンサート等を開催する予定です。

「小学生のための音楽広場」につきましては、各ご家庭で使われていない、いわゆる休眠楽器を募集しております。その楽器をお借りしたり、寄付いただく中で子供たちに実際に楽器に触れてもらって体験できるような機会を提供するという形で考えております。

次のページをご覧くださいと思います。もっと身近に音楽をとということで「そよ風コンサート」、あと「にこにこステージ」、小さなお子さんがあるお父さんお母さんのためのコンサート、あと、コミュニティコンサートということで今年は山本地区で飯田市と下伊那郡内では泰阜村でアンサンブルのクラシックの音楽を開催します。

チケットの販売が2月25日からということで一斉販売を開始する予定になっております。

なお、今年からこの5番、企業協賛ということで記載させていただきましたが、地元の企業の皆様にこの音楽活動をご支援いただきながら進めていきたいという形で実行委員会取り組んでおりまして現在26社の1月31日現在ですがご協力いただきながら音楽祭を開催する予定でございます。あと詳細のほうは次のページから記載されていますのでご覧いただけたらと思います。

あともう1点資料とは別にチラシのほうでお配りさせております。カラー刷りでA4の縦で「翔ぶ 金田千鶴の生きた道」ということで演劇集団演劇宿の公演が3月8日飯田文化会館で開催されます。18年前に1回公演をした演目ですが、今度改めまして、内容を少し構成を変えまして3月8日に開催されますので、またご覧いただけたらと思います。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（7）図書館関係報告事業

○教育長（代田昭久） 続きまして「図書館関係報告事項」をお願いします。

滝本中央図書館館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

資料ナンバー5をご覧ください。

「よむとす事業の報告及び予定」ということをお願いします。

先月予定のところでご案内しましたが、中学生が部活のオフになる期間に、図書館でも中学生の興味を広げて幅広い体験をしてもらおうということで「Join us!いいだ Lib」というイベントを企画しました。

図書館で図書館の本を選ぶということを紹介しまして、実際に書店と一緒に出かけって図書館に受け入れする本を選んできて、その本の紹介ポップを作成していきます。10名の定員のところで9名の参加をいただいて複数の学校の生徒さんが参加してくれました。

実際に買って来たポップの中の一部を写真で掲載しております。他の学校の生徒さんと一緒に話をしながら楽しそうに本を選んだりポップをつくっておりました。その話の中とアンケートの中でまだこれから図書館でやってみたいことがあるということで、本の受入体験をしたいですとか、ビブリオトークといって本の紹介を高校生や大人の人たちとも一緒に行いたいという声がありまして、今後につなげていきたいというふうに思っております。

ポップの展示を、今、図書館玄関、入った左側の展示コーナーで2月中までということで行っておりますのでご覧ください。

それから今後の予定ですけれども、チラシを2つ図書館からご用意しております。水色のチラシですけれども、ビジネス支援講座ということで「消える仕事残る仕事 10年後あなたの仕事ありますか？」という講演会を企画しています。

AI社会ということで、これからどんな仕事が残ってどんな仕事が消えていくのか、それから今インターネットで調べ物をするのが非常に増えていると思うんですけれども、実はインターネット検索でわかることもあればわからないこともあるということで、これから就職するまたは進学する高校生や働く社会人の皆さんに、それぞれ10年後に自分がどうありたいかということを考えるきっかけにさせていただきたいということで企画しました。

こちらのチラシのほうに定員30名というふうに書いてありますけれども、すでに50名ほど申し込みがありまして、会場を広げて60名までということで募集をしております。高校

生が5人ほど申し込みをしてきてくださっております。講師は信大の情報学の先生、鈴木治郎先生です。

それからもう1つ地名講座、こちらは定期的な講座でありますけれども、伊那谷地名研究会と共催で行っておりまして、ここ数回、中馬街道の歴史と地名ということで3月8日に企画しておりますので、ぜひご参加いただきたいと思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（8）美術博物館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「美術博物館関係報告事項」をお願いします。

池戸美術博物館副館長をお願いします。

◎美術博物館副館長（池戸通徳） 4点ございます。

まず、美術博物館・上郷考古博物館の3月の「びはくにゅーす」がお手元に黄緑色であるかと思います。3月も盛りだくさんでございます。よろしくお願ひいたします。

2点目は口頭による連絡でございます。美術博物館協議会委員の公募を行います。広報いだ2月15日号に掲載をすところであります。従来ですと学識経験者、あるいは関係団体からということで10名お願ひをしておりましたが、任期満了に伴い今回その10名のうち1名を公募とさせていただくということで手続きを踏みました。できるだけユーザー、使う側の声が聞けたらいいなというふうに考えています。受付締め切りを3月7日ということで募集をしておるといことをお伝えいたします。

3点目になりますが、寄付がございましたのでご連絡いたします。12月の末でございますが、飯田市の文化発展に寄与するためということで、匿名の方から1千万円、美術博物館の調査研究資料収集活動、とりわけ人文分野、(民俗学・国学・仏教美術)及び伊那谷民俗学研究所の活動充実のためという目的でいただきました。3月の議会、今年度の補正予算ということで計上させていただく予定でございます。

最後であります。本日の新聞で、南信濃振興公社がかぐらの湯から指定管理者を撤退することのご存じあるかと思ひます。南信濃振興公社が指定管理を請け負っていた4つの施設の中の1つは遠山郷土館でございます、美術博物館の管轄でございます。遠山郷土館もかぐらの湯と同様に来年度は直営する方向で、事務職員2名、パートタイム交代制ということで4月1日から順次体制を整えたいと、いま準備をしておるところでありまして、遠山郷の雇用ということも考えながら、これから人員募集するという段階でございますので連絡を

いたします。

以上であります。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（9）歴史研究所関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「歴史研究所関係報告事項」をお願いします。

小椋歴史研究所副所長、お願いします。

◎歴史研究所副所長（小椋貴彦） それでは歴史研究所からご報告をさせていただきます。

レジュメの一番最後のページになります。12月、1月の歴史研究所の活動報告ということで近現代史ゼミ以下各ゼミのワークショップの実施状況を報告させていただきます。

それとは別に別紙で4枚ほどございますが、地域史講座のご案内ということで、2月29日近代下伊那の蚕種業他、3月中旬・下旬にそれぞれ地域講座、ワークショップを開催いたしますので、よろしければまたご参加いただければありがたいと思います。

それから歴研ニュースの104号お手元にお配りしていますのでご一読いただければありがたいと思います。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま学校教育課から歴史研究所までの報告事項がありましたが、この報告事項に関するご質問ご意見等ありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（10）今後の日程について

○教育長（代田昭久） それでは、今後の日程についてをお願いします。

滝沢学校教育課長補佐、お願いします。

◎学校教育課長補佐（滝沢拓洋） それでは、本日の資料の3ページ目をご覧いただきたいと思えます。

今後の日程につきまして主なものについて記載してございます。

次回の教育委員会定例会は、3月12日を予定しておりますのでお願いしたいと思います。

説明につきましては以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

日程について何かご質問はありますか。

年度末に向けて委員の皆さんには出席をお願いする会議、また儀式等ありますけれども、何卒よろしく願いいたします。

その他。

はい、小椋歴史研究所副所長お願いします。

◎歴史研究所副所長（小椋貴彦） はい、教育委員会の部局、それから教育委員さん含めて歓送迎会の日程の事前のご案内をさせていただきたいと思います。改めての正式な文書は差し上げたいと思いますが、少し先ですけれども4月10日の金曜日に4月の教育委員会の定例会が予定をされておりますけれども、4月10日金曜日の夕方6時半から教育委員会の退職者・転出者も含めて歓送迎会を計画しておりますので、ぜひ教育委員さんも出席いただければありがたいと思います。会場のほうは羽場坂町のマリエールで行います。4月10日金曜日の夕方6時半からマリエールで開催をしたいと思いますのでご承知おきいただきたいと思います。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

他にその他でご発言ありますか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

日程第10 閉 会

○教育長（代田昭久） はい、それでは日程第10、以上をもちまして、令和2年度2月定例会議を閉じさせていただきます。

本日もどうもありがとうございました。

閉 会 午後4時6分